

# 縄文

# THE FOREST OF JOUMON の

# 森 だより

2020年  
第8号

水子貝塚公園・水子貝塚資料館ニュース

2020年5月発行

編集・発行：水子貝塚資料館

☎ 049-251-9686

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP

QRコード



〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

FAX 049-255-5596



左：竪穴住居の説明（関沢小6年生）  
右：火おこし体験（水谷小6年生）

水子貝塚資料館は毎年市内の小学6年生が歴史学習の一環で見学を訪れます。土器の観察、展示の見学、縄文服や火おこし体験などを通じて郷土の歴史や文化財への理解を深め、ふるさと富士見への愛着がはぐくまれることを学習の目的としています。各説明には資料館の職員のほかに市民学芸員も協力しており、展示の解説や火起こしの体験などで活躍しています。

## 春の水子貝塚には子どもたちの声がいっぱい！



水子貝塚資料館では、毎月隔週の土曜日に「土曜おもしろミュージアランド」を開催中で、子どもから大人まで楽しめる歴史、古代にまつわる様々な体験をすることができます。

春はミニチュア土器づくりや石のアクセサリづくり、はにわづくりなどのメニューの人气が高く、多くの親子連れで賑わっています。また毎週土日には「体験！いつでも7+1」を行っていて、8種類の体験が時間内であればいつでも体験できます（詳細はHPで）。

その他に、毎年春に行われる富士見市子どもフェスティバルでは、中学生ボランティアの皆さんと協力して、まがたまづくりの出店も行っています。

左：土曜おもしろミュージアランド（はにわづくり）  
右：春の公園内風景



春の水子貝塚公園では、他にも様々な動物や植物など豊かな自然に触れることができます。タンポポやスミレなど春に咲く草花を探したり、メジロやコゲラなど野鳥を見つけたりなど、歴史学習以外にも様々な楽しみ方があります。この機会に是非親子で訪れてみてはいかがでしょうか？日常ではできない体験が待っています！

# 資料館情報



## 展示室7千百科 vol.1 松ノ木 13 地点型深鉢

この土器は、富士見市西みずほ台に位置する松ノ木遺跡から出土した約 5000 年前の縄文時代中期中頃の深鉢形の土器です。口縁は 5 単位の波状で、器形は口縁と胸部が強くとびれています。模様は上下に分かれており、それぞれに粘土紐が横に 2 本、縦に何本も貼り付けられています。その独特の模様から「ラジエーター」と形容されたり、「格子目状粘土紐貼付紋土器」や「松ノ木 13 地点型深鉢」と呼ぶ研究者もいます。出土点数はあまり多くありませんが、武蔵野台地東部を中心に南関東地方に分布しています。

この格子目状粘土紐貼付紋土器は他の同時期の土器と異なり、成立前後の時空的な系統が不明で、まるで突然出現し突然消滅したかのように見えます。また、同じような模様の土器が遠く離れた長野県の伊那地方に分布するといった特徴もあります。

この伊那地方に分布するものは、武蔵野台地のものが器面全体に模様が施されるのに対し、口辺部だけに限定されています。また、伊那地方と南関東地方の中間にあたる長野県のハケ岳周辺や山梨県ではまだ類例が見つかっておらず、空白地域となっていま

す。つまり、離れた場所同士がどのようにして同じ模様を共有することができたのかが不明であるということです。

ここで、黒曜石の流通を例に独自に考察してみたいと思います。長野

県の霧ヶ峰や北ハケ岳を原産とする黒曜石は、県内はもちろんのこと原産地から遠く離れた南関東地方でも広く流通しています。特に縄文時代中期中頃から後半にかけては霧ヶ峰系統の黒曜石が広く南関東地方で流通しています。また、松ノ木遺跡からは伊那地方の特徴をもつ土器も出土しています。これらのことから、伊那地方と南関東地方の遠く離れた地域間において、何らかの交流があったことが考えられます。

(水子貝塚資料館 高橋 宏之)



### 水子貝塚 トピックス ②

縄文時代の日本列島には土器を使い、竪穴住居に住み狩猟採集生活をする人々が暮らしていました。調理や照明、暖房など、縄文人にとって火は生活に欠かせないもので、彼らの遺跡からススのついた土器や炉の跡が発見されています。マッチやライターもない時代に我々の祖先は既に火を生活に取り入れていたのです。

調べたところ、平成 30 年 3 月に国史跡真脇遺跡（石川県能登町）から縄文後期末～晩期初頭に使われていた「火きり臼」が発見されたことが分かりました。「火きり臼」を使用するという点から、真脇遺跡から発見されたものは木片のくぼみに火きり棒を手で回転させる「きりもみ式」の道具だと推測できます。

水子貝塚資料館では縄文人の生活を体験してもらうということで、主に小学生を対象に火起こし体験を行っています。火起こし道具は、はずみ車という重りの回転の力を使った「舞ぎり式」を使用しています。この方法は江戸時代後半に神社などの儀式用として使われたもので、比較的簡単に火を起こすことができます。

体験では火きり棒の安定した回転維持に苦労しますが、火きり臼から煙が出てくると努力が喜びに変わってきますよ。是非、挑戦してください。(市民学芸員 田中 聡行)

※このコラムは市民学芸員が執筆しています

毎週土曜・日曜・祝日は…

## 体験！いつでも7+1

受付時間 【午前の部】10:00～11:30  
【午後の部】13:00～14:30

※土曜おもしろミュージアムのある日はできません

### <体験メニュー>

1. まがたまペンダントづくり (200～250 円)
2. 貝の腕輪づくり (100 円)
3. どんぐりクラフトづくり (100 円)
4. 古代の鏡づくり (800 円)
5. じゅず玉の腕輪づくり (無料)
6. プンブンこまづくり (無料)
7. 火おこし体験 (無料)
8. 弓矢体験 (無料)



まがたまペンダント



じゅず玉の腕輪



古代の鏡



火おこし体験



貝の腕輪